2026年度環境情報科学研究発表大会

(一社)環境情報科学センター　一般公開シンポジウム

地域を豊かにする再生可能エネルギーの導入
― 政策・環境・文化・合意形成・実装から考える地域共生 ―

□**日 時**：2026年12月21日（月）　15：00～17：10（時間は予定）

□**場 所**：日本大学会館およびWeb配信（予定）

日大会館：東京都千代田区九段南4-8-24（Tel: 03-5275-8110）

アクセス■ JR中央線・総武線「市ヶ谷」駅下車 徒歩2分

■ 都営地下鉄新宿線、東京メトロ有楽町線・南北線

「市ヶ谷」駅 下車 A2出口 徒歩1分

https://www.nihon-u.ac.jp/access_map/headquarters/

□**参加定員**： 150名 （会場出席）

□**参加費**：無料（事前申込制）

□**申込先**：以下のURLまたはQRコードよりお申込みください（外部サイトへ移動します）

https://ws.formzu.net/fgen/S730895262/

参加申込締切り： 2026年12月14日（月）

※原則として対面で開催するが、Webでも配信予定。

□**開催趣旨**：

地球規模の気候変動による影響が顕在化し、近年は問題の深刻さが広く一般に認識されている。温室効果ガス排出削減に向けて中長期的なカーボンニュートラル実現を目標としている現在の状況において、省エネルギー行動による削減だけでは限界があり、今後はさらなる再生可能エネルギーの導入拡大が必要である。

その一方で、メガソーラーやウィンドファームなどの大規模再エネ設備は自然破壊や景観悪化、災害誘発、騒音など様々な形で地域環境に悪影響を及ぼすことが懸念され、全国各地で地域住民による反対運動が生じている。

こうした状況において、社会的合意形成に至る手掛かりとして「地域裨益*」の重要性が認識されつつある。本シンポジウムでは、持続性の高い地域循環共生圏の実現を進めるべく、再生可能エネルギーの政策的な課題を踏まえつつ、地域への再生可能エネルギー導入と環境保全、地域史・文化との融合、多様な価値観と合意形成、地域への実装など、多様な視点から議論する。各分野で活動する研究者・実務者から話題を提供いただき、地域に根ざした持続性の高い再生可能エネルギーのあり方と、それを実現するための条件や課題を考える。

---

* 地域やそこに暮らす人々に、将来にわたって利益やよい影響をもたらすこと

□プログラム：

１．開会挨拶　15：00～15：05

２．趣旨説明　15：05～15：15

趣旨説明及び問題提起

平野勇二郎氏　国立環境研究所社会システム領域上級主幹研究員

３．講演

・地域脱炭素の”当たり前化”に向けて　15：15～15：30

浜島直子氏　環境省地域脱炭素政策調整担当参事官

自治体における脱炭素事務の当たり前化とメガソーラー・陸上風力を巡る課題、脱炭素先行地域について

・地域への再生可能エネルギーの導入と環境保全　15：30～15：45

錦澤滋雄氏　東京科学大学准教授

再エネ導入における環境配慮やゾーニングについて、近年の自治体や研究の取り組みを紹介し、地域でのより良い事業とするための課題や今後の方向性を探る

・地域史・文化の文脈における再生可能エネルギー ～その意義と可能性～　15：45～15：00

堀啓子氏　滋賀県立大学准教授

地域の歴史や文化などの文脈で再生可能エネルギーを語り直すことの意義と、より多くの再生可能エネルギーが"地域のモノ"となることを目指した研究展望について

・再生可能エネルギー導入に係る地域の多様な価値観と合意形成　16：00～16：15

竹内彩乃氏　東邦大学准教授

地域の関係者などを含めて協議するための参加・対話の設計、どのように参加者の懸念や期待を共有するのか

・地域共生型再生可能エネルギー事業の実現に向けて　16：15～16：30

吉岡剛氏　芝浦工業大学特任教授

脱炭素先行地域の事例をもとに、地域共生型再エネ事業の進め方や事業性評価、事業化に伴う課題とリスクについて

４．総合討論　16：30～17：10

司会：平野勇二郎氏　国立環境研究所社会システム領域上級主幹研究員

（以上　敬称略）

□**主　催**：一般社団法人環境情報科学センター
□**後　援**（予定）：環境科学会、環境経済・政策学会、環境アセスメント学会、
環境法政策学会、環境福祉学会

□**問合せ先**：一般社団法人環境情報科学センター　環境情報科学研究発表大会事務局

E-mail : online@ceis.or.jp
https://www.ceis.or.jp/sympoinfo_2026.html